

第2章 基本目標Ⅱ：自然共生

みどりや生きものの豊かさを育み、人と自然がつながるまち



① 豊島区の現状

● 生物多様性に関する豊島区の状況（資料 P.81）（用語解説 P.100・103）

▶ 緑被率の推移

令和元年度に行った緑被現況調査では、区内の緑被面積は 172.16ha で緑被率は 13.23% でした。

昭和 49 年からの推移では平成 9 年までは緑被全体が減少していましたが、平成 16 年以降は増加しています。開発時における緑化指導による新たな緑地整備や既存樹木が大きく育ったこともあります。また、平成 9 年度調査までは 10㎡以上（水準Ⅱ）の緑被を調査対象としていましたが、平成 16 年からは 1㎡以上（水準Ⅰ）を対象とすることが可能となり、街路樹、住宅地の庭木、集合住宅や事業所の植え込みなどの小規模な緑被をカウントできるようになったことも大きな要素のひとつです。平成 27 年から令和 2 年の推移では、緑被率は 12.9%⇒13.23% と若干増加しています。

項目		面積 (ha)	構成比 (%)
人工構造物被覆地以外		197.71	15.20
	緑被地	172.16	13.23
	樹木被覆地	151.45	11.64
	草地	14.41	1.11
	屋上緑化	6.30	0.48
	裸地	24.64	1.89
水面	0.91	0.07	
人工構造物被覆地		1,103.29	84.80
合計		1,301.00	100.00

▶ 緑被率の計測方法について

緑被率とは、樹林・草地、農地、園地などの緑で覆われる土地の面積割合で自然度を表す指標の一つです。夏に撮影した空中写真などを測定データとして用いており、平面的な量の緑を把握するための指標です。（重層的な緑(植えたばかりの樹木等)の量を測定することは困難となります。）

出典：豊島区緑被現況調査

② 施策の実施状況

リーディングプロジェクト

●みどりやビオトープの維持管理（資料 P.81）（用語解説 P.102）

区で取り組んできた緑化、学校・公園等において創出したみどり空間やビオトープを適切に維持管理し、生物多様性の保全を図っています。

小学校の改築に合わせて設置されたビオトープは、子ども達の学習・体験の場として活用されています。



清和小学校



目白小学校

また、地域住民等との連携による樹木やビオトープの維持管理を推進しています。令和3年度は、池袋本町電車の見える公園と南長崎はらっぱ公園で過去に植樹された「いのちの森」の手入れ活動は新型コロナウイルス感染症の影響で中止となりました。

実施場所	参加者数
池袋本町電車の見える公園	—
南長崎はらっぱ公園	—



池袋本町電車の見える公園の様子



南長崎はらっぱ公園の様子

取組指標	基準値 (H29年度)	目標値 (R12年度)	目安値 (R3年度)	実績 (R3年度)	目安値の 進捗状況
学校・公立公園の ビオトープ数（累計）	19か所	21か所	19か所	19か所	
地域が管理する公園 ・ビオトープの数	3か所	3か所	3か所	3か所	

リーディングプロジェクト

《評価・分析》

区民をはじめとし、区に集う人々にとっての安らぎの場となるみどり空間を維持するとともに、自然への関心を深める学習や観察の場所としてはもちろん、保護者や地域の方々と子ども達とのコミュニケーションの場となっています。

《今後の取組み》

ビオトープについては、引き続き、学校の改築時に設置を進めます。また、みどりなどの保全是、今後も区民や地域との連携による維持管理を推進するとともに、協働による維持管理体制の構築を検討していきます。(環境政策課 環境計画グループ・事業グループ 公園緑地課 緑化推進グループ 学校施設課 学校改築推進グループ)

【関連する環境基本計画の施策の方向】

Ⅱ-1 生物多様性を保全する

Ⅱ-3 人と自然のつながりを深めるまちをつくる

● 生物多様性支援事業（資料 P.81）

生物多様性の普及啓発・保全に向けて、区内の自然環境を把握するモニタリング調査を実施し、収集した情報を多様な主体と共有する仕組みを構築します。

令和3年度は、区民参加型調査「としま生きものさがし」を行いました。また、南長崎はらっぱ公園内ビオトープ池の管理を引き続き区民団体と協働で行いました。さらに、区内小学校のビオトープ池の生態調査も実施し、改善点と今後の維持管理の提案を行いました。



クロスジギンヤンマ 羽化殻
(清和小学校にて撮影)

《評価・分析》

南長崎はらっぱ公園内のビオトープ池については、区民団体との連携によりアメリカザリガニの捕獲を続けてきた結果、平成29年度からの累計は1,800匹となりました。また、トンボ類の幼虫（ヤゴ）は平成30年度から引き続いて確認することができ、継続した取組みの効果があらわれています。

清和小学校のビオトープ池ではクロスジギンヤンマの羽化殻を確認しており、繁殖地としてビオトープが機能していると考えられます。今後もこの状態が維持できるよう、水生植物の管理や外来生物が放流されないように注意喚起を継続して行うなどの提案をしました。

《今後の取組み》

専門家による生物多様性モニタリング調査とこれまでの区民参加型調査の報告をもとに作成した、区内の生きものを紹介する「としま生きものガイドブック」の配布により、多くの区民の皆さまと区内の生きもの情報を共有していきます。

また、令和4年度は新たに区立小学校2校と区有施設1施設のビオトープ池の生態調査を行い、区内の生物多様性を高める取組みをしていきます。区内の数少ない水辺環境であるビオトープの生物多様性を高めることにより、生きものの生息地を確立することを目指します。(環境政策課 環境計画グループ)

【関連する環境基本計画の施策の方向】

Ⅱ-1 生物多様性を保全する

● としま生きものさがしの実施（資料 P.81）（用語解説 P.96）

自然や生きものへの関心を高めていただくために、区内にどのような生きものがあるのかを区民の皆さま自身が調べる「としま生きものさがし」を行いました。調査期間中（6月～9月）に見つけた生きものを記録用紙に記入して報告していただきました。報告件数は、1,115件。その内チョウの仲間が最も多く371件、続いてセミの仲間204件、トンボの仲間128件と続きました。

区民の皆さまからいただいた情報は、ニュースレター発行の他、環境省の生きもの情報共有システム「[いきものログ](#)」を活用し、区内の生きもの情報を広く共有しています。



成果指標	基準値 (H29年度)	目標値 (R12年度)	目安値 (R3年度)	実績 (R3年度)	目安値の 進捗状況
生きもの調査に参加する 区民の数(累計)	283人	1,258人	583人	787人	

《評価・分析》

目安値を達成し、引き続き多くの区民の皆さまに参加いただくことが出来ました。令和3年度は、区立小学校や区立保育園、区立幼稚園への呼びかけを行ったほか、新たにフレイルセンターへ参加を呼びかけました。また、twitterなどのSNSを利用するなど、幅広い周知を行いました。

令和3年度は報告件数が過去最多となり、参加者はほとんどが区内在住者で、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う在宅時間の増加の影響や、身近な公園などで個人でも取り組める活動のニーズがうかがえました。今後もイベント等における調査ガイドの配布や情報発信を行い、身近な生きものへの興味を広げていきます。

《今後の取組み》

小学校や保育園については、さらに本取組みを活用していただけるよう、引き続き連携を呼びかけていきます。令和4年度については、報告件数も多い雑司ヶ谷霊園、染井霊園との連携を開始します。また「Yahoo!くらし」アカウントへの投稿など、周知方法も増やし、幅広く情報発信を行っていきます。(環境政策課 環境計画グループ)

【関連する環境基本計画の施策の方向】

Ⅱ-1 生物多様性を保全する

● 池袋駅周辺の公園整備


公園の整備により、人々の生活にやすらぎや潤いをもたらすみどり空間を創出しています。

令和2年12月に全面オープンした区内最大の公園となるとしまみどりの防災公園(イケ・サンパーク)は、南池袋公園の約3倍の芝生広場があり、新たな賑わいの場として、災害時には区全体の防災拠点として今後の利活用が期待されています。



イケ・サンパーク

また、本公園ではSDGsモデル事業の第1弾として「イケ・サンパーク ファーマーズマーケット」が開催されています。ファーマーズマーケットは、毎週末開催され(新型コロナウイルス蔓延による休止期間あり)、埼玉県の新鮮な農産物をはじめ、区内の名産品、交流都市の特産物などが出店し、イケ・サンパークから新たな日常が始まっています。

取組指標	基準値 (H29年度)	目標値 (R12年度)	目安値 (R3年度)	実績 (R3年度)	目安値の 進捗状況
公園の整備面積 (整備済面積)(累計)	21.1ha	24.5 ha	24.5ha	23.8ha	

《評価・分析》

計画当初、大規模な学校施設の公園化が予定されていましたが、当初予定されていた場所が計画変更により他の用途に使用されているため、目安値を下回る結果となりました。

《今後の取組み》




令和4年度は、池袋本町で児童遊園の拡張整備を行います。既存公園についても、引き続き改修整備を行う予定です。(公園緑地課 緑化推進グループ)

【関連する環境基本計画の施策の方向】




Ⅱ-2 みどりを保全・創出する

③ その他の成果指標と取組指標

● 成果指標

成果指標	基準値 (H29年度)	目標値 (R12年度)	目安値 (R3年度)	実績 (R3年度)	目安値の 進捗状況
緑被率	12.9%	13.0%	13.0%	13.2%	
緑視率が25%以上の 箇所の割合	16.8%	(増加)	-	20.4%	
みどりのボランティア 団体数	40 団体	40 団体	40 団体	42 団体	

● 取組指標

取組指標	基準値 (H29年度)	目標値 (R12年度)	目安値 (R3年度)	実績 (R3年度)	目安値の 進捗状況
エコミューゼを活用した イベント・講座数(累計)	6 回	80 回	29 回	17 回	
緑化基準を満たす施設数	72%	80%	80%	75%	
街路樹の設置割合 (設置済割合)	78.0%	80%	80%	79%	

《評価・分析》

「緑視率が25%以上の箇所の割合」は目標値を大幅に上回ることが出来ました。
その他の成果指標については、目標値に届かない項目もありますが、進捗状況は概ね良好です。

《今後の取組み》

令和4年度も引き続き、緑化助成制度を広報・窓口等で宣伝し、区内の緑化率を上昇させていきます。

また、「緑化基準を満たす施設数」については、緑化計画書のチェックを徹底し、成果指標を上昇させていきます。(公園緑地課 緑化推進グループ)